

聖書日課 『からし種』 2023.9.3-9.10

|  |  |
|--|--|
| <p>9月3日<br/>(日)<br/><br/>エズラ記<br/>3章</p> | <p>「二十歳以上のレビ人を主の神殿の工事の指揮に当たらせた」(8節)。エルサレムに帰還したゼルバベルとイエシュアは祭司とレビ人と共に神殿再建の基礎工事に取りかかる。その工事の指揮を二十歳以上のレビ人にさせた。礼拝の再開でも指揮をとり、この工事でも主導となるレビ人の働きは重要であった。現在でも礼拝に関わる働き人を覚えたい。</p>     |
| <p>4日<br/>(月)<br/><br/>エズラ記<br/>4章</p>   | <p>「そのときから、エルサレムの神殿の工事は中断されたまま、ペルシアの王ダレイオスの治世第二年にまで及んだ」(24節)。アッシリアから連れてこられたこの地の住民のいやがらせは行政官、書記官まで巻き込んでアルタクセルクセス王に工事を中止させるまでに至った。王が変わるまで待たなければならない。大変な忍耐力が必要だった。</p>        |
| <p>5日<br/>(火)<br/><br/>エズラ記<br/>5章</p>   | <p>「神の目がユダの長老たちの上に注がれていたもので、彼らは建築を妨げることができず、その報告がダレイオスになされ、それに対する王の返書が送られてくるのを待った」(5節)。やっと神殿の工事を再開したが、ユーフラテス西方の総督の手入れがあり、ダレイオス王の工事許可がおりるのを待った。この出来事に神の目が注がれていた事に注目したい。</p> |
| <p>6日<br/>(水)<br/><br/>エズラ記<br/>6章</p>   | <p>「エルサレムの神殿、いけにえをささげる場所として、以前の基礎を保ったまま、神殿は再建されなければならない」(3節)。ダレイオス王により命令が出され、バビロンにある記録保管所が調べられ、キュロス王が勅令を發布した覚書が見つかった。その内容を元に、ダレイオス王はユーフラテス西方の長官たちに神殿の工事の援助も命じた。</p>        |

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2023.9.3-9.10

|  |  |
|--|--|
| <p>7日<br/>(木)</p> <p>エズラ記<br/>7章</p>   | <p>「イスラエルに対する主の戒めと掟の言葉に精通した、祭司であり書記官であるエズラに、アルタクセルクセス王は親書を送った」(11節)。アルタクセルクセス王はエズラに帰還を望むイスラエルの人々と共に帰る事を許された。また、エズラにはユーフラテス西方の全ての民、彼の神の律法を知るすべての者を治めさせ、律法も教えさせた。</p>              |
| <p>8日<br/>(金)</p> <p>エズラ記<br/>8章</p>   | <p>「わたしはアハワ川のほとりで断食を呼びかけ、神の前に身をかがめ、わたしたちのため、幼い子らのため、また持ち物のために旅の無事を祈ることにした」(21節)。エズラはエルサレムへの旅の前に、騎兵を王に求めることをせず、おのれの神に尋ね求め、恵み溢れるその御手が差し伸べられると信じて祈った。この祈りの姿勢を心に留めたい。</p>            |
| <p>9日<br/>(土)</p> <p>エズラ記<br/>9章</p>   | <p>「あなたたちの娘を彼らの息子に嫁がせたり、彼らの娘をあなたたちの息子の嫁にしたりしてはならない」(12節)。これはイスラエルの民に対する主の御命令。彼らがその地の住民によって汚されることがないように、彼らと姻戚関係を結んではならない、と主は言われた。だが、多くの者がこの罪を犯した。エズラは赦しを乞い祈るしかなかった。</p>           |
| <p>10日<br/>(日)</p> <p>エズラ記<br/>10章</p> | <p>「以上の者は皆、異邦人の娘をめとった。その女の中には子を産んだ者もあった」(44節)。10章のリストは最も哀しく切ないリストである。確かに異民族との結婚は偶像礼拝をもたらす危険要因であったが、離縁された女たちや子どもたちはどうなったのだろう。主イエスなら何と声をかけられるだろうか。神の前の「聖」を厳格に求める「旧約」の限界がここにある。</p> |